

患者さん 質問箱



Q

暑い日が続いています。先日熱中症でこどもが亡くなったニュースがありました。熱中症とはどんな病気なのでしょう。(遊びに行きたい新米ママ)

A

熱中症とは環境や過度の運動の影響をうけて体が高温になることです。体温は汗をかくことでコントロールされています。そこで高温になっている時は汗のかけない状態、脱水症となっています。熱中症が20分以上続くと体の臓器(脳、心臓、肝臓など)が破壊されます。20分以内に体温を下げるのが大切です。熱中症には屋外での日射病、暑い部屋や車の中で起こる熱射病があります。高齢者や乳幼児では通気のない高温の室内や車の中で起こりやすいようです。

●**症状**：症状は脱水、異常高体温です。脱水が進行すれば尿がでなくなり、意識が低下して死亡することもあります。軽症ですと体の一部がピクピク動いて痛みを伴い、さらに顔色が悪く、ボーッとすると脈が浅く速くなります。中等症では頭痛や吐気、虚脱感などの症状が重なり、血圧低下、脱力感が強くなります。重症では意識が低下し、生命の危険となります。

●**対策**：意識がはっきりしていることを確認します。意識がおかしかったり、全身の痙攣が起こったらすぐに救急車で医療機関へ搬送します。どんな状態の熱中症の方に対してもしなくてはならないことは、涼しい場所に移して、衣服を緩めるまたは脱がせることです。水分が飲めれば、まず水分(飲料水ならすべて可)。水よりはアミノ酸飲料がベターですが、スポーツドリンクのほとんどは糖分で浸透圧を保っているため体の中では低調になり(ナトリウムが減少する)水分が足りているのに状態が悪化する(低調性脱水あるいは水中毒)こともあります。できるだけ薬局で売っている経口補水液を利用しましょう。

また体の冷却をおこないます。おもに気化熱により体温を下げます。湿らせたタオルで体を拭く、氷嚢などで体を冷やす、霧吹きなどで水をかけて風を送って(ドライヤー、団扇、クーラー)冷やすことが大切です。このときやりすぎるとかまいません。本人が寒いと訴えるまで続けます。また使用する水は冷たくない方がよいのですが、どんな水でも原則使用可能です。

●**予防法**：水分の補給、高熱の環境下に長時間すごすことは厳禁です。戸外では日陰や帽子などの使用。屋内では室内の気温や通気に留意しましょう。地面からの照り返し(放射熱)の影響から逃れるために、子供は抱きかかえるのもよいでしょう。高齢者では気温が30度以上で、クーラーなどが使用できないときは、デパートやスーパーまたはホテルのロビーなど快適な環境に移動するのも一つの方法でしょう。また熱中症は一度かかった人はなりやすいとも言われています。かかったことがある方は十分に注意して運動などをおこなしましょう。(OCFC院長)

熱中症関係のサイト

熱中症のHP <http://www.heat.gr.jp/care/index.html>

環境省熱中症予防情報サイト <http://www.nies.go.jp/health/HeatStroke/>

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科(併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間:月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00

土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場七台あり

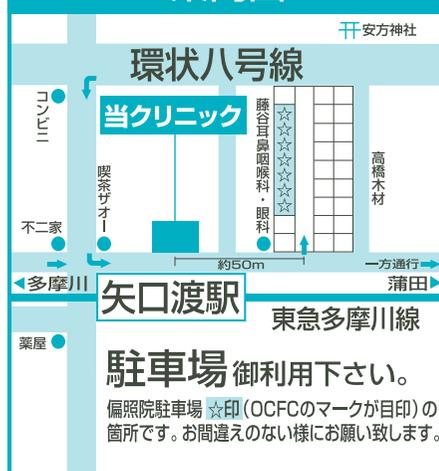
予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: <http://www.ocfc.jp>

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp

案内図



東急多摩川線矢口渡駅前



2007年8月1日号

Vol.30

大川こども&内科クリニック

麻疹大流行、次は日本脳炎か

今年は2月頃から麻疹感染が発症していましたが、4月から本格的な流行となりました。報告された患者数は7月10日現在で1439名ですが恐らく実数はこれの3倍ぐらいではないでしょうか。今年の流行は0歳、1歳のピークに加え、18~20歳の青年層に多い点です。青年層は多くは予防接種を受けているため、麻疹の症状は非典型的で(修飾麻疹)、特徴的な所見に乏しく、診断が遅れたことにあります。流行地は東京、神奈川、大阪に多く、大都市から地方に広がったようです。OCFCでは23名の麻疹患者さんを診断しました。ワクチン未接種の方は症状が重いようでしたが、全員入院の必要がなく軽快されました。また来院による2次感染は一人もおきませんでした。皆様が隔離室の意義をよくご理解されていたおかげです。一般の待合室でお待ちになった麻疹患者さんは4名でしたが、同室された方で予防接種歴のない患者さんには電話連絡をして、麻疹の予防接種あるいはγグロブリンの予防処置を行い発症を防ぐことができました。患者さんが在籍されている高校、中学、小学校の

かたは一時期全員隔離室にて診察しました。8月に入り、流行は終息すると思えますが、9月になって小流行の危険性は残っています。

MRワクチン、麻疹ワクチンを受けましょう。

今年の流行はワクチン1回接種者に発症が多かったことが特徴です。そのため皆様には2回接種をお勧めします。来年度から2回目接種の公費負担が実現しますが、中学1年と高校3年に限定され5年計画で2回接種を広めようとしています。しかし、感染の危険を考えると対象者以外の方も早期に2回目の接種が必要です。また乳幼児の感染を防ぐためにはお父さんお母さん世代の予防接種が大切です。この世代には麻疹ワクチンをお勧めします。ワクチンは2度接種する時代です。

1口メモ 修飾麻疹 ワクチン接種者に発症する麻疹。抗体が不十分にあり、典型的な所見がない。コプリック斑や発疹、発熱など症状に乏しく、抗体検査をしてわかることが多い。不活化ワクチン背守護の麻疹は異型麻疹として区別される。異型麻疹の症状は必ずしも軽くない。

日本脳炎の予防接種をお勧めします。

昨年は熊本で3歳の患者さんが発症しています。今年の夏に患者さんが発生すると予防接種を求める方が急増しワクチン不足になるでしょう。お早目の接種をお勧めします。OCFCでは昨年の倍の予防接種を確保してそなえております。6月、7月の接種者は100名前後となって、厚労省の通達の前水準までできています。東南アジアでは数万人の患者さんに発症し日本でも豚などの日本脳炎感染率は西南日本で70%を越えています。感染しての発症率は1%以下ですが、いったん発症すると三分の二の方が亡くなるか重い

後遺症が残ります。これに対して日本脳炎ワクチンの重い副反応(ADEM:急性散在性脳脊髄炎10%に重い後遺症が残ります。)は100万から400万に一人です。さらに今後2~数年は新しいワクチンはその副反応が多いため利用できません。従来のワクチンはもう作られていないので、保存されている分だけしかありません。

乳児に髄膜炎など重い感染症を起こすインフルエンザ桿菌に対するワクチン(Hibワクチン)は来年1月からご利用いただけるでしょう。DPTと同時期接種と考えられています。

OCFC INFORMATION

感染症 だより

●感染性胃腸炎大流行

4月からの患者数が一番多いのは相変わらず感染性胃腸炎でした。4月、5月はロタウイルス、6月からはアデノウイルス等が原因となっているようです。細菌性の胃腸炎はごく僅かのようで、ほとんどの方には抗生剤は使用していません。下痢止めも原則使用禁止です。4～5日以降（原因物質の排泄が終わった頃）に使用開始です。乳児では乳糖分解酵素が十分活用できなくて、2次性乳糖不耐症となることがあります。ミルラクトなど乳糖分解酵素が必要となります。粉ミルク使用の方は乳糖を含まないミルクに変更します。乳糖を含まないミルクに関してはOCFCまたは薬局にお問い合わせ下さい。4月165名、5月159名、6月176名、7月123名でした。

●アデノウイルス感染症

4月5月6月と猛威を振ったのがアデノウイルス感染症です。4月33名、5月102名、6月68名、7月は49名でした。アデノウイルス感染症のうち咽頭に白い膿がつくのが滲出性咽頭炎（扁桃炎）です。5月がピークでした。目と咽喉が赤くなる咽頭結膜炎はプール熱とも言われますが、やはり7月には増加しています。流行り目といわれる流行性角結膜炎は毎月2～5名程度でした。アデノウイルス感染症には抗生剤は効きません。じっと我慢の5日間です。流行性角結膜炎では抗生剤とステロイドの点眼薬が必要とされています。後に乱視となることを防ぐ意味合いもあります。

●ヘルパンギーナと手足口病

この感染症は夏風邪の代表格で腸管ウイルスによります。コクサッキーやエコー、エンテロウイルスなど複数のウイルスが原因です。ですから一夏にヘルパンギーナを2回経験することもあるわけです。手足口病は4～6月で2～8名でしたが、7月は30名、ヘルパンギーナは1～4名が95名に増加しています。ヘルパンギーナは1～2日の高熱とその後の強い咽頭痛が特徴です。水分の補給が大切です。食事はできなくともあわてることはありません。いずれも抗生剤は無効です。

●その他の感染症

溶連菌感染症 溶連菌感染症は4月34名、5月

25名、6月37名、7月22名でした。いずれの方もペニシリン系抗生剤の投与で治療いたしました。治療終了後は検尿にて腎炎の早期発見が必要です。幸い一名も腎炎発症者はいませんでした。8月に浮腫と血尿でいらした方はASO値が上昇しており、溶連菌後の急性腎炎と診断して昭和大学小児科に紹介入院となりました。この方は溶連菌の治療歴はありませんでした。

マイコプラズマ肺炎 マイコプラズマ感染症は4月34名、5月7名、6月14名、7月21名でした。マイコプラズマ感染では全ての方が肺炎になっているわけではありません。感冒のレベルでとどまっている場合もありますし、中には中耳炎や髄膜炎になることもあります。重くなっていくかどうかはあの不味い抗生剤をのめるかどうかにかかっています。

小流行をみせた疾患 麻疹は5月に1名、6月に11名、7月に10名で8月の1名をくわえて23名でした。流行性耳下腺炎は期間中12名、水痘は66名です。夏場の水痘は虫さされと区別するのが困難な方もいらっやいます。伝染性紅斑は24名でした。インフルエンザは4月にA45名、B15名の発症で5月5日のインフルエンザB感染が最終でした。

病診連携

4月から7月での紹介患者さんは90名、紹介患者引き受けは7名でした。紹介患者さんのうち検査依頼は脳波、頭部CT・MRI、心エコーなどです。東邦大学放射線科、医科歯科大学小児科、都立広尾病院循環器科にて検査を行っています。紹介入院は12名で、成人のヘルペス感染症を昭和大学皮膚科、高齢者肺炎を東邦大学呼吸器科、大森日赤呼吸器科、腎結石を黒田病院、高齢者の発熱は広尾病院に紹介しています。小児では急性腎炎を昭和大学、肺炎を荏原病院、川崎病を虎ノ門病院などに紹介しています。外来紹介は64名でした、それぞれの症状にあわせて、心疾患、小児外科疾患は東京医科歯科大学小児科、小児外科、痔などは成育医療センターや虎ノ門病院の皮膚科に紹介しました。紹介患者引き受けは転地等のためで喘息や肺炎のその後の経過観察があります。

処置室 から

処置室には4月1124名、5月1084名、6月987名、7月989名がいらっしゃいました。点滴は延べ212名でした。肺炎や感染性胃腸炎に罹った40名以上の方が入院せずに外来点滴で治ったこととなります。呼吸困難な方に対する吸入は348名に、鼻水が止まらない方への鼻吸引は1050名です。鼻吸引は中耳炎の予防にもなります。採血検査は831名に、検尿は458名に行いました。迅速検査は937名に施行しました。アデノウイルス322名、溶連菌検査286名、インフルエンザ検査169名、マイコプラズマ検査144名です。そのほかRSウイルス検査、ロタウイルス検査を行っています。処置室ではお母さんがうまくできない時、浣腸や座薬挿入、軟膏塗布、傷の手当てなども行っています。

診療時間

栄養相談の予約：代表電話で直接予約ください。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00～4:00にお越しください。検査希望の方は代表電話にて直接予約してください。

曜日	8:30～12:00	14:00～16:00	16:00～18:00
月	小児科・内科(院長・三宅)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長) 内科・循環器(弓場)	乳健・予接・ア・慢	小児科
木	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(青木)・じっくり外来(院長)
土	小児科・内科(院長・代診)	乳健・予接(1時～2時)	小児科(代診:2時～3時)
	2・4土 神経外来(荒木)	じっくり外来(院長:不定期)(1時～2時)	
	2土 発達心理(藤本)	子育て相談室(9時～3時)	
2・4土 アレルギー(大柴)			
日曜・祝日	9時～12時 休日診療・予接(院長・荒木・佐々木)		

●土曜日代診：
佐々木、荒木、富澤、梶原

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患、慢：慢性疾患、栄養相談の予約：代表電話で直接予約ください。
●毎週日曜日午前予防接種しております(要予約) ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。
●子育て相談(藤本)は直接受け付けにお申し込みください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	おたふくかぜ	27#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	日本脳炎	28#
アレルギー/慢性疾患	13#			麻疹	23#	その他	29#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	MR	31#
予防接種	15#	取消	30#	水痘	26#		

※予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤ってれば1#で行って下さい。
※インフルエンザの予約は予防接種枠で希望される方は15#をプッシュして25#をおします。一般診療枠、日曜・休日で接種を希望される方は19#をおして下さい。

院内設備・機器

院内設備：隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(3台) オゾン空気清浄・防臭装置(2台)、電解水発生装置、消毒用専用スプレー
検査機器：レントゲン装置、デジタルX線画像診断システムFCR CAPSULA、自動解析装置付心電計、血球分析器 CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター血糖測定器、経皮酸素分圧モニター 24時間酸素分圧モニター、パルスオキシメーター2001聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリーアトムネオテーブル、顕微鏡用デジタルカメラおよびモニターテレビ 超音波踵骨測定装置A-100EXPRESS

病児保育室 うさぎのママだよ

うさぎのママは4月より定員が8名となって昨年よりご利用の方が増加しています。4月126名、5月149名、6月154名、7月157名でした。ご利用の方は0歳児、1歳児で半数を占めています。稼働率は81～93%でした。キャンセル率は31～45%です。3～4名の方がキャンセル待ちでご利用いただけます。キャンセル待ちの方にもキャンセルは出ますから4～6番までは入室できる可能性が高いようです。今年登録者は現在419名です。感冒など軽症の方のご利用が多い中、肺炎で点滴が必要な方のご利用もあります。病児のためのデイケアもうさぎのママの重要な役割です。入院を避け、昼間の間に十分な医療を施し、夜はご両親と一緒に休みになり、お子様に心の安らぎを、もたらすことができました嬉しいものです。